

令和5年度 東濃地区小学校国語科研究協議会 低学年「読むこと」

生きてはたらく言語能力を高める 国語科指導

～楽しくて、力がつく言語活動の工夫～

児童の実態

- 学習活動に意欲的で楽しみながら活動している。
- 語彙の獲得に意欲的な児童が多い。

- △発表したり交流したりすることに苦手意識がある。
- ・考えを述べることに自信がない。
 - ・交流することのよさを実感できていない。



- ・楽しみながら学習内容を身に付ける。
- ・自信をもって自分の考えを話す。
- ・交流することのよさを実感できる。

願う児童の姿

- 身の回りで使われている語句を話や文章の中で使うことを通して、語彙を豊かにする子
- 文章の内容を捉え、考えたことや分かったことを自分の言葉でまとめたり相手に伝えたりすることができる子

研究内容（多治見市）

- (1) 単元（本時）で身に付けさせたい「生きてはたらく言葉」の明確化 【小国研(1)－③】
- (2) 「生きてはたらく言葉」を身に付けさせるための指導方法や学習活動の工夫 【小国研(2)－②】
- (3) 「生きてはたらく言葉」が身に付いたかどうかの評価方法と指導・援助の工夫 【小国研(2)－③】

研究実践

単元名 せつめいする文しょうをよもう

教材名 「じどう車くらべ」

- ①仕事やつくりを表す言葉を選び出す
- ②言葉の意味を捉える

じどう車の「しごと」と「つくり」をしらべて
じどう車はかせになろう。



研究実践（1）単元構造図の工夫

単元を貫く言語活動

じどう車の「しごと」と「つくり」をしらべて、じどう車はかせになろう。

第1次

<第1時>
単元の導入

ねらい
知っている自動車について交流することで、それぞれの自動車には「しごと」があることに気付き、「しごと」と「つくり」を比べて読むという学習の見通しを持つことができる。

課題
はたらくじどう車には、どんな車があるのだろうか。

支援
・身の回りの自動車が思い浮かばない児童には、教科書の挿絵から、知っている自動車を見つけられるようにする。
・出し合った自動車がどんな仕事をしているかを考えることで、それぞれの自動車には「しごと」があることに気付かせる。

生まてはたらく言葉

- ・ 比べる
- ・ しごと
- ・ つくり

<第2時>
内容の把握

ねらい
問いの文や、どんな自動車が紹介されているかを確かめることで、文章の構成に気付き、内容の大体を捉えることができる。

課題
「じどう車くらべ」をよんで、どんなことがかかれているか、たしかめよう。

支援
・これまでの説明文の学習を振り返って、同じような問いの文を見つけることができるようにする。
・問いの文は色を分けて線を引くことで、2つの問いがあることを視覚的に理解できるようにする。

生まてはたらく言葉

- ・ 比べる
- ・ しごと
- ・ つくり
- ・ そのために

<第3時>
バスや乗用車

ねらい
「しごと」と「つくり」を表す言葉に着目することで、「しごと」に応じた「つくり」になっていることに気付き、バスや乗用車について説明することができる。

課題
バスや乗用車の「しごと」と「つくり」をせつめいしよう。

支援
・「しごと」を赤「つくり」を青で線を引き、問いの文と対応していることが視覚的に分かるようにする。
・「ごせき」の意味が分かるように押絵に印を付ける。
・自分が説明している様子を録音することで、学びを振り返ることができるようにする。

れている動画を視聴し、「しごと」と「つくり」について理解を深めることができるようにする。

生まてはたらく言葉

- ・ (運転席の) ほか
- ・ 荷台
- ・ 広い⇨狭い
- ・ たくさん⇨少ない
- ・ そのために

第2次

<第4時>
トラック

ねらい
「しごと」と「つくり」を表す言葉に着目することで、「しごと」に応じた「つくり」になっていることに気付き、トラックについて説明することができる。

課題
トラックの「しごと」と「つくり」をせつめいしよう。

支援
・「しごと」を赤「つくり」を青で線を引き、問いの文と対応していることが視覚的に分かるようにする。
・「にだい」の意味が分かるように押絵に印を付ける。
・自分が説明している様子を録音することで、学びを振り返ることができるようにする。

ごと」と「つくり」について理解を深めることができるようにする。

生まてはたらく言葉

- ・ (運転席の) ほか
- ・ 荷台
- ・ 広い⇨狭い
- ・ たくさん⇨少ない
- ・ そのために

<第5時>
クレーン車（本時）

ねらい
「しごと」と「つくり」を表す言葉に着目することで、「しごと」に応じた「つくり」になっていることに気付き、クレーン車について説明することができる。

課題
クレーン車の「しごと」と「つくり」をせつめいしよう。

支援
・「しごと」を赤「つくり」を青で線を引き、問いの文と対応していることが視覚的に分かるようにする。
・「うで」「あし」が分かるように押絵に印を付ける。
・「つり上げる」の意味が分かるように動作化して確かめる。

音することで、学びを振り返ることができるようにする。
・クレーン車の動画を視聴し、「しごと」と「つくり」について理解を深めることができるようにする。

生まてはたらく言葉

- ・ つり上げる
- ・ のびたり、うごいたり
- ・ じょうぶ
- ・ そのために

<第6時>
説明の順番

ねらい
自動車が説明されている順番やその理由を考えることで、身近なものから順番に説明すると、読む人が分かりやすいということに気付き、構成の意図を捉えることができる。

課題
「じどう車くらべ」は、どうしてこのじゃんばんでせつめいしているのかかんがえよう。

支援
・自動車の挿絵を用意し、順番が変わるとどんな印象を受けるか想像しやすいようにする。
・挿絵だけではなく、本文を読み返すことで、内容に着目しながら説明の順番の良さを考えられるようにする。

生まてはたらく言葉

- ・ 比べる
- ・ しごと
- ・ つくり

第3次

<第7時>
はしご車

ねらい
はしご車の「しごと」と「つくり」を考えてまとめることで、どの自動車でも既習の文型が使えることに気付き、次單元への見通しをもつことができる。

課題
はしご車の「しごと」と「つくり」をせつめいしよう。

支援
・はしご車を知らない児童もいると考えられるため、写真や動画を用意する。
・「そのために」という言葉がどのように使われていたのかを振り返り、「しごと」に合う「つくり」を選択してまとめることができるようにする。

生まてはたらく言葉

- ・ そのために

終末でもたせたい意識

今後の活動の見通し（生活や学習にいかす）

それぞれの自動車は、その「しごと」に合った「つくり」になっていることがわかった。他の自動車の「しごと」と「つくり」も調べて、みんなに紹介したい。

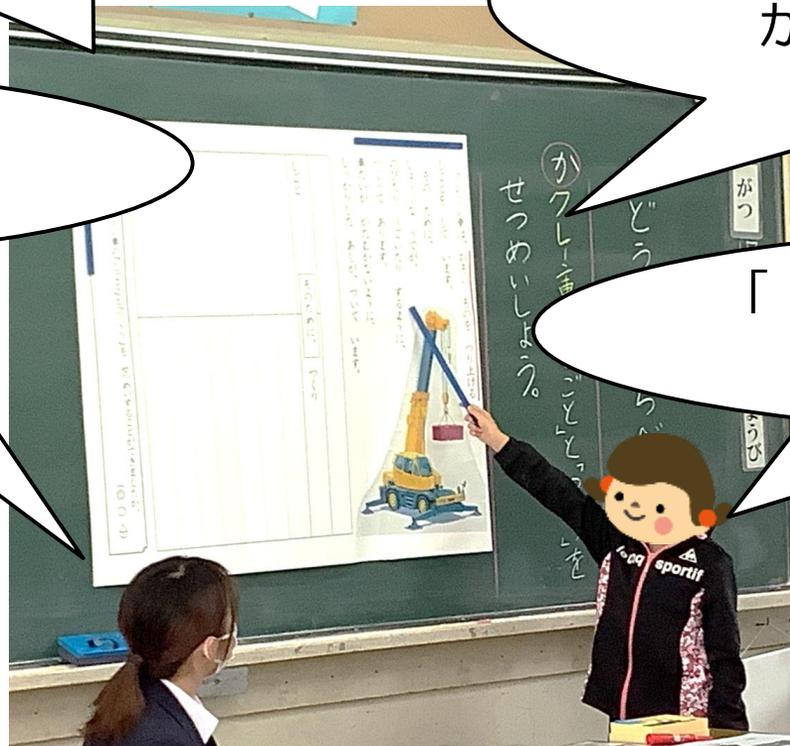
研究実践（２） 問い返し

どうしてそれが仕事だとわかったの？

「『仕事をしています。』って
かいてあるからです。」

どうしてそれがつくりだと
わかったの？

「『つくってあります。』って
かいてあるからです。」



研究実践（２） 問い返し



もし、窓が大きくなかったら？

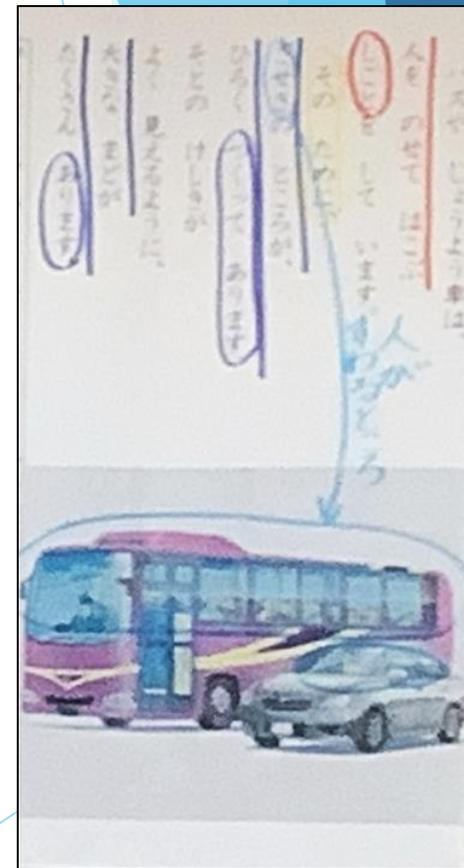
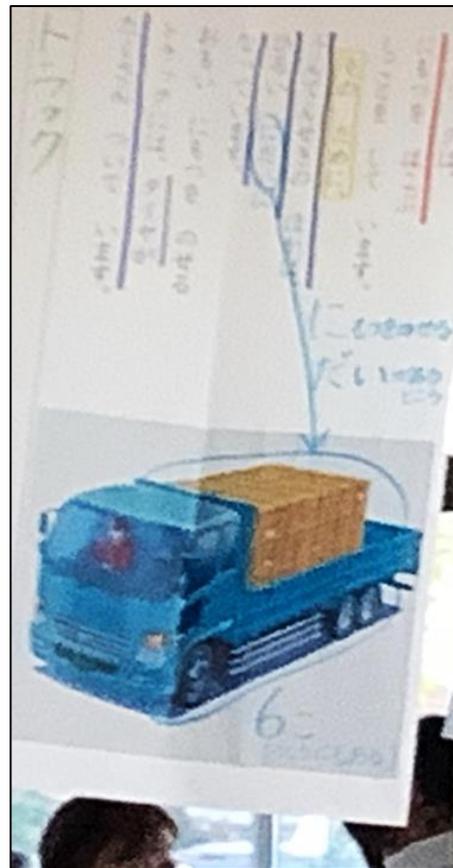
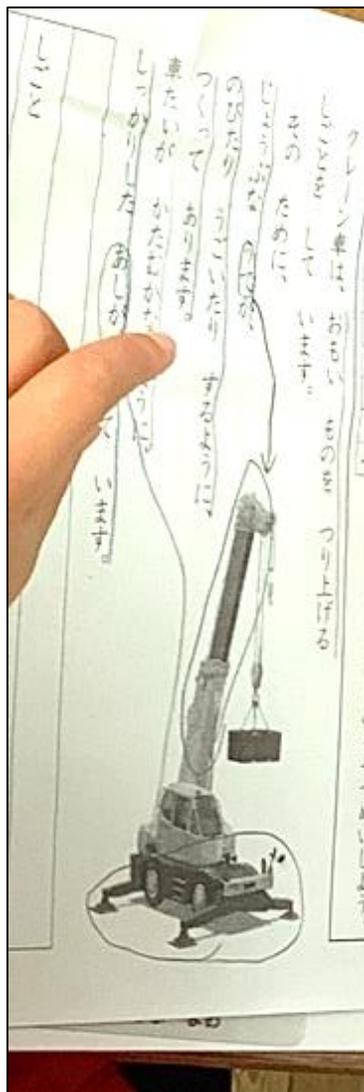
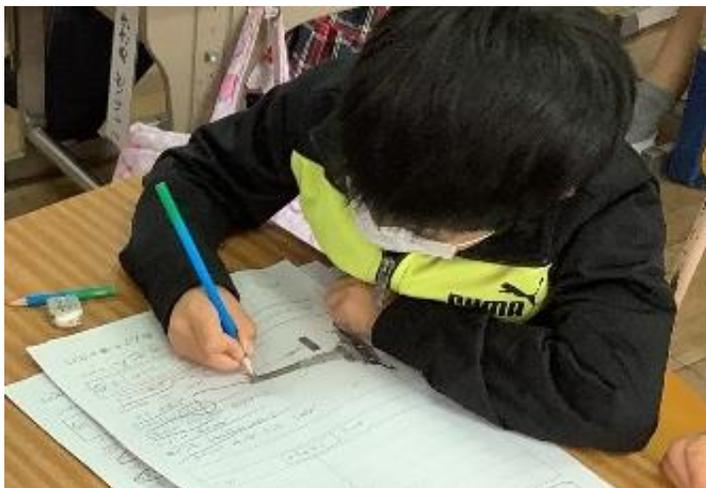


もし、荷台が広くなかったら？



もし、腕が丈夫じゃなかったら？

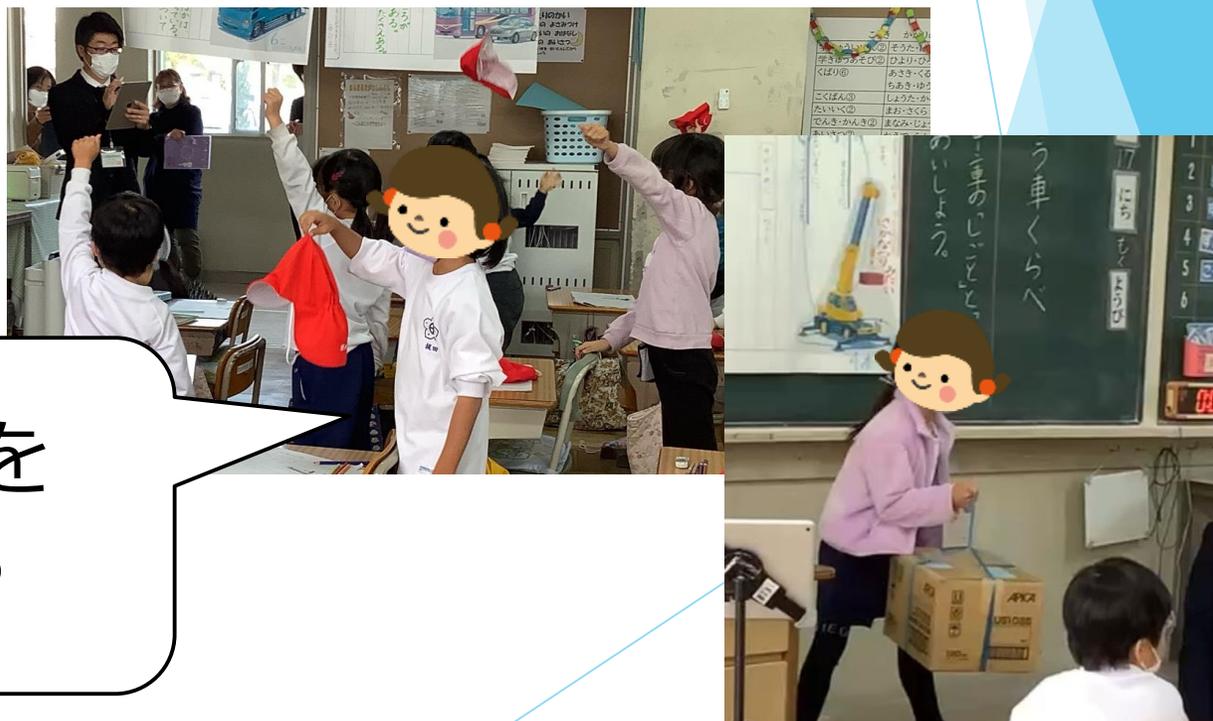
研究実践（2）挿絵とつなぐ



研究実践（２）動作化

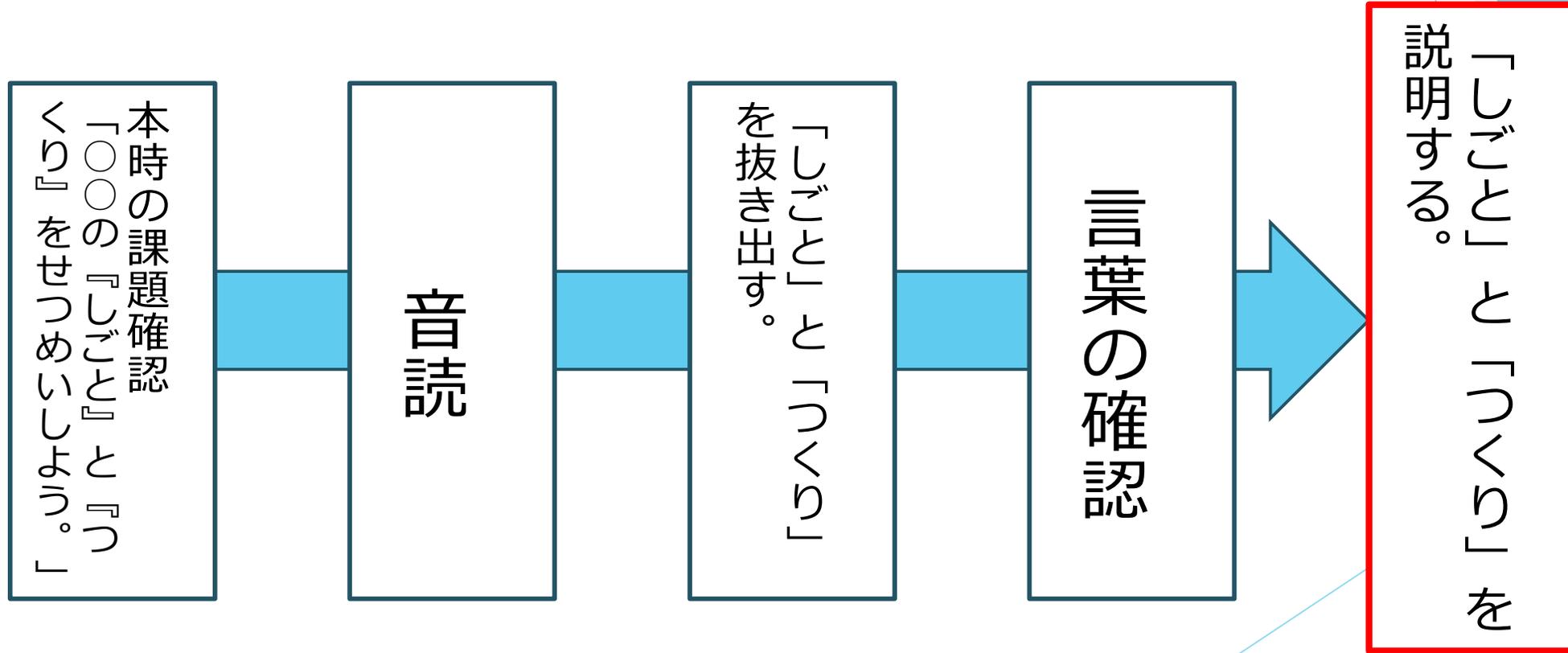


うでがのびたりうごいたりする

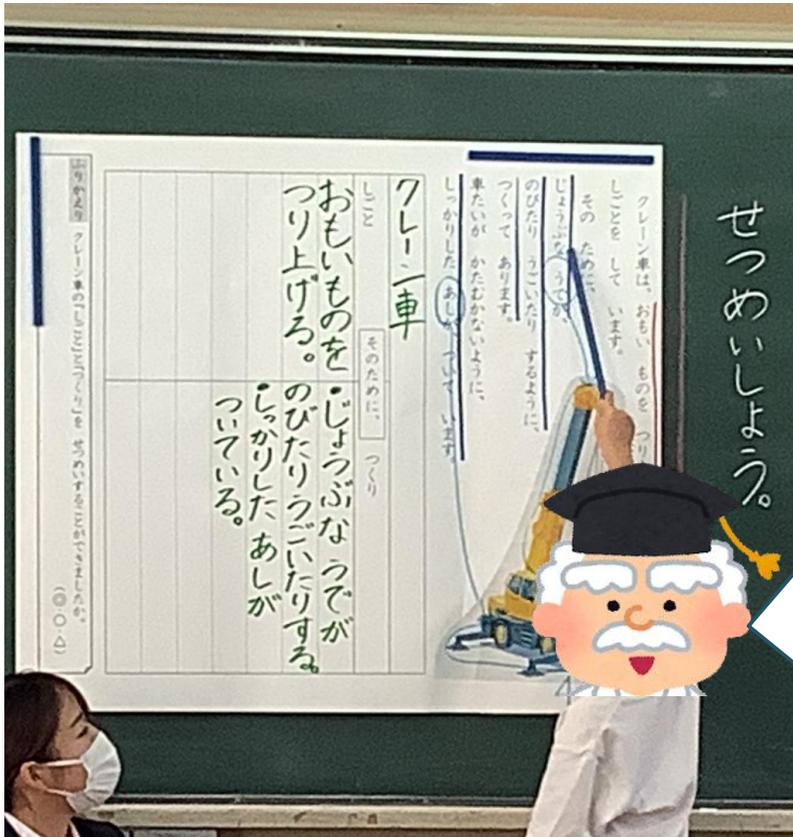


おもいものをつり上げる

研究実践(2) 単位時間のパターン化



研究実践(2) 単位時間のパターン化



クレーン車は、重い物をつり上げる仕事をしています。そのために、丈夫な腕が伸びたり動いたりするようにつくってあります。車体が傾かないように、しっかりした足がついています。しっかりした足がもしもしっかりしてなかったら、車体が傾いたりしてしまいます。丈夫な腕がもし弱かったら、持っている物を落としてしまうかもしれせん。

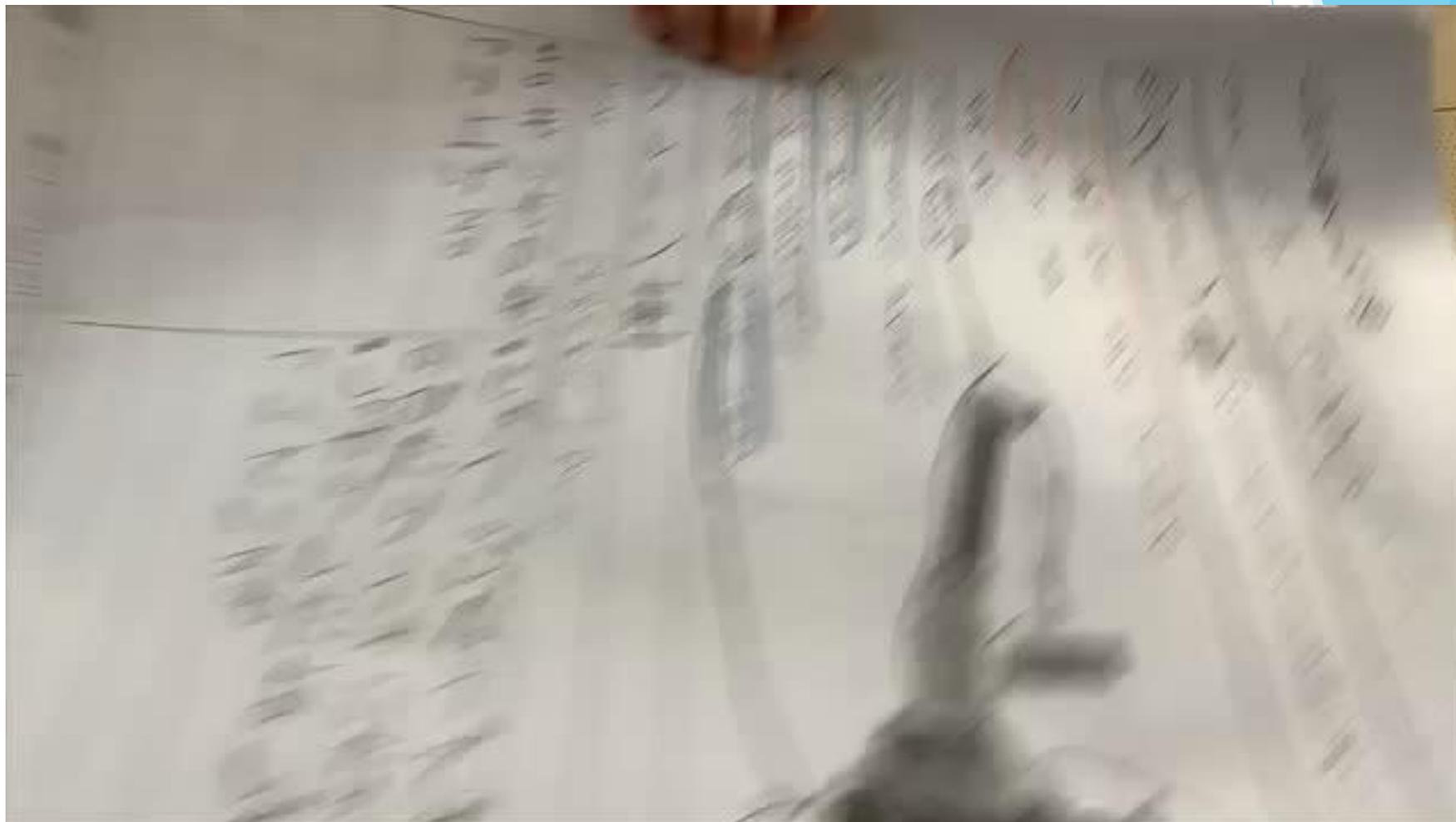
研究実践（3）ICTの活用

1 回目



研究実践（3）ICTの活用

3回目



成果と課題

- 教師が単元を通して身に付けさせたい言葉を明確にもって指導することで、言葉の使い方や意味を正しく理解させることができた。
研究内容（1）
- 説明する動画を撮影し、自分を客観的に見直したり、仲間の良さを取り入れて繰り返し説明したりする活動を取り入れたことで、自信をもって発表させることができた。
研究内容（3）
- 児童が正しく語彙を獲得するために、教師がICTをより効果的に活用しながら、適切な指導方法を工夫する必要がある。
研究内容（2）

ご清聴ありがとうございました。